

# 日本文化をいかに教えるか

## — 「日本事情」実践報告 —

### *How to Teach Japanese Culture*

### — “NIHON JIJO” Practical Report —

桑山 理子 KUWAYAMA Masako

(留学生別科)

## 1. はじめに

日本文化に触れずして日本語を学ぶことはできない。書籍やインターネットで膨大な知識は手に入る。しかし、それだけで留学生たちは私たちが日常使っている「生きた日本語」に触れたことになるのだろうか。平面的な情報としての日本語ではなく、立体的に日本語を捉えさせることで日本文化、日本語への興味関心を掻き立てる授業をめざした。

## 2. 「日本事情」

### 2.1. 「日本事情」とは

「日本事情」は日本文化や日本社会に関することを学ぶ授業である。

「日本事情」の到達目標及びテーマを以下のように決定した。前期は「日本文化について知識を深め、関連する語彙について学ぶ。自ら情報を収集し、まとめる力をつける。日本語で意見や考えを伝える練習を通し、情報発信力を高める。」とした。さらに後期には

「日本文化について知識を深め、関連する語彙について学ぶ。自ら情報を収集し、まとめる力をつける。日本語で意見や考えを伝える練習を通し、情報発信力・自己表現力を高める。」とし、日本語による表現の場数を踏むことで自己表現力を身につけさせることを目標とした。

授業では、教師が情報を与えるだけでなく、テーマに関連することを自分で調べ、見学や体験でわかったこと、知ったことをまとめて発表することに重きを置いた。

### 2.2. 方針

知識として言葉を覚えるだけでなく、その言葉が使われている状況も含めて「生きた日本語」を学ぶことを目的とし、使える日本語習得へつなげる。また、インターネット社会ではクリッカー一つで様々な情報が手に入るが、パソコンやスマホを通して得られないもの、その場の「香り」や「手触り」、「音の響き」を体験することで知識とともに記憶に残す。

## 3. 実践内容

以下に2022年度に実施した、2年課程1年生(2022年度生)の日本事情1(表1)お

よび日本事情2（表2）の授業内容を紹介する。なお、2021年度生も内容はほぼ同じである。

表1 日本事情1（2022年度2年課程1年生 前期）

2022年度 前期 授業実施表		
第1回	6月10日	オリエンテーション 住所
第2回	6月17日	アルバイトの話 健康チェックカード記入
第3回	6月24日	電話番号 自転車交通ルール 標識
第4回	7月1日	季節の行事
第5回	7月8日	七夕
第6回	7月15日	盆踊り
第7回	7月22日	伝統的衣服
第8回	7月29日	浴衣体験
第9回	8月5日	地震
第10回	8月19日	日本の元号について 昭和日常博物館について
第11回	8月26日	昭和日常博物館 見学
第12回	9月2日	昭和日常博物館 まとめ
第13回	9月9日	発表
第14回	9月27日	フィードバック 犬山城の紹介
第15回	9月29日	犬山城調べ

表2 日本事情2（2022年度2年課程1年生 後期）

2022年度 後期 授業実施表		
第1回	10月7日	犬山城見学発表のまとめ
第2回	10月14日	犬山城見学の発表
第3回	10月21日	和楽器について
第4回	10月28日	和楽器について② 異文化交流イベント
第5回	11月4日	お箏体験教室
第6回	11月11日	お箏体験のレポート作成準備
第7回	11月18日	七五三
第8回	11月25日	子供のお祝い発表ビデオ撮影 お箏体験レポート清書
第9回	12月2日	発表視聴振り返り アドバイス お祝いの食事
第10回	12月9日	おすし
第11回	12月16日	お正月
第12回	12月23日	年賀状
第13回	1月6日	書初め大会
第14回	1月13日	書初め大会発表
第15回	1月20日	スピーチ大会練習

## 4. 実践例

### 4.1. 七夕

まず、日本の四季と年中行事についてどのような行事があるのかを紹介し、自分の国と

比較させた。次の回で七夕について詳しく説明し、絵本の読み聞かせを行った。さらに、学生に聞いた話をもとにあらすじを自分で書かせることで内容を深く理解させた。その結果、天の神様に「願い事」を聞いてもらうという七夕の状況も理解しやすくなった。さらに、文型「～ように」を使ってそれぞれの願い事を考えさせ短冊に記入させた。予算が限られている中、できることは少ないが、願い事を考えるところから、貼り付けるところまで楽しそうに取り組み、自分の作品を写真に撮ったり動画を撮ったりしていた。

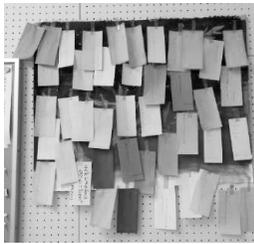


写真1 2022年度生七夕飾り



写真2 2021年度生七夕飾り

#### 4.2. 盆踊り体験

「季節の行事」の中でお盆休みと夏休みの違いについて、お盆休みというものがなぜあるのか、日本人の死生観にも軽く触れながらお盆・お墓参りについて絵や写真などを使って説明した。また、お盆休みには夏祭りが開催され、盆踊りというものを踊ることについても説明し、盆踊りを踊る様子を動画で確認し、盆踊りを踊ってみたいという意欲を高めた。

できれば浴衣を着て踊った方が雰囲気も出てよかったのだが、浴衣の着付けと盆踊り体験を90分の授業の中で組み込むのは無理があると考え、盆踊りだけで一コマの授業を組むことにした。慣れないリズムで初めての踊りを踊るので、動きやすい服装で正解だった。

曲目は「春駒」と「炭坑節」を選択した。「春駒」は振付が激しく難しいと言われるが、振付をパーツに分けてみるとその数は他の踊りよりも少ないこと、また、馬の動きをまねた振付がはっきりしていてわかりやすいこと、同じように家畜を大切にしている文化がある学生には、この踊りが生まれた背景に共感を得やすいことから「春駒」を選んだ。また、「炭坑節」は広く親しまれている踊りということと、炭鉱で働く工夫たちの動きからできた振付ということで説明しやすく理解しやすいこと、盆踊りらしい振付が含まれていることから「炭坑節」を選んだ。

完璧に踊ることは目標とせず、日本の音楽に合わせて体を動かすことで日本語のリズムに乗るという体験を重視した。学生たちは「春駒」のリズムに乗ることが難しかったようだが、繰り返しの多い動きをすぐに覚え、真似することができた。右か左かを間違えて互いにおつかりそうになりながらも楽しそうに踊っていた。「炭坑節」はリズムがよりゆっくりで、こちらの方が覚えやすかったようだ。繰り返すうちに覚えて自分で踊れるようになる人もいた。振付に合わせて動詞も繰り返し言いながら練習していたので、学生たちは

言葉を覚えて、言いながら踊っている人もいた。体験と言葉が結びつき記憶に残るいい例かと思われる。

練習中の様子を Facebook にアップ（動画有）

<https://www.facebook.com/100081731587118/videos/pcb.125204710213915/607667173984546>



### 4.3. 浴衣体験

事前に世界の伝統的な衣服を例に出して日本の伝統的衣服である着物について学び、着物を着るときに必要なものの名前を覚え体験に備えた。次の回で、夏に着る着物「浴衣」を体験した。自分の好きな色や柄の浴衣と帯を選び、羽織るところまでは自分でさせたが、そこからは教員らが手伝い着付けていった。初年度は下駄の数が人数分なかったのので、交代で履いてみては写真撮影を行っていた。すべてが初めての体験で嬉々として写真や動画を撮り SNS にアップする様子が見られた。

体験と同時に自分の国の伝統的衣服との比較もさせた。自分の国の文化を日本語で表現する作業は与えられた情報を日本語にすることよりも、発信したい・伝えたいという意欲がより強くなると考え、日本事情の授業の中で繰り返し学生に挑戦させる課題である。しかし、自国の文化でありながら、日本語でどう表現するのか、カタカナでどう表記するのか、わからない学生がほとんどである。一つ一つを筆者が手伝ってやらねばならないが、自主的に筆者に質問する回数が増える作業であり、日本語で表現するということに対して能動的になるいい機会となった。



写真3 着付けてもらう学生達



写真4 帯を結ぶ筆者



写真5 2022年度生集合

### 4.4. 日本の元号 昭和日常博物館 見学

日本の元号と天皇の関係について解説し、天皇が代わると同時に元号が変わる仕組みを理解させた。西暦との比較をして自分の生年月日を和暦で言えるように指導した。

また、北名古屋市にある昭和日常博物館を見学し、昭和時代にはどんなものがあったのか興味をひかれたもの、また自分の国と同じようなものの写真を撮り、後日写真を見せな

がら日本語で発表させた。興味を惹かれるものは人それぞれで個性が出ていた。

発表そのものに慣れていない学生もおり人前で話すことに慣れるため、一年間の授業を通し段階を踏んで人前で表現する機会を設けた。



写真6 夏の特集コーナー



写真7 常設コーナー



写真8 昭和日常博物館前

#### 4.5. 校外学習 犬山見学

まずは、日本語で書かれた資料を読み取り情報を得る練習をするため、犬山城のパンフレットやガイドブックのコピー、各自携帯電話を使用しインターネットで犬山城や犬山市内について調べさせた。犬山城に関する質問シートを配布しておき、記載されている質問から何を調べなければならないか考えて行動することで、今後の自発的に調べる授業につながる。また自分が興味のあることを調べるように促した。

2022年9月30日、2年課程37人と1年課程6人の学生を引率し、犬山市へ校外学習に出かけた。犬山城、からくり資料館、犬山祭り資料館を見学し、必要な写真を各自撮影し、その場でわかったこと感じたことなども見学しながら確認し、発表に備えた。

レポートを作成し、各クラスで自分が興味を持った犬山について発表を行った。



写真9 からくり館見学



写真10 犬山城見学



写真11 駅にて

#### 4.6. 和楽器 お箏体験

和楽器についてどのような楽器があるのか、演奏方法、音色について動画を見ながら確認し、初めて聞く楽器名を正しく表記するとともに、和楽器について学習した。名古屋芸術大学音楽学部でお箏をご指導されている野村祐子先生に留学生別科の学生への体験教室を快く引き受けていただき、学生達は箏を弾く体験をした。事前に学生には野村先生にいただいた箏曲の楽譜を配布し、漢数字の読み方を確認し体験教室に備えた。

学生達は爪をつけ、一人一面のお箏を前にして音を出すことから始め、「さくら」の合奏まで体験することができた。また、野村先生の素晴らしい演奏も聴くことができ、学生

達はプロが奏でる楽器の響きを体感することが出来た。指が痛くなったり、曲が弾けて楽しいと感じたり、アンサンブルホール中に響く合奏の響きを体全体で受け止め、日本文化を実体験できた。芸術大学ならではの体験だった。

体験教室後、どんな体験をしたのか各自でレポートを作成させた。まずは、質問に答える形で体験教室を振り返らせ、その質問に対する答えをまとめてレポートをしあげさせた。すぐには答えが出せない学生が多いので、それぞれがどう感じたか、例を出しながら個人個人の思ったことを引き出していった。さらに、自国の伝統的な楽器の中で箏に似たものがあるかどうか、似ている物の説明などについて書かせた。比較するための文型や言葉を復習し使ういい機会となる。無理に難しい文章にする必要はなく、それぞれが持っている日本語のレベルに合わせて文章を組み立てるよう学生に声をかけ続けた。

レポート作成に2回分の授業時間をかけた。まずは下書きを書かせ、教員が文法的な部分を訂正し、清書させた。

レポートは留学生別科の廊下に貼り出し通る人に見てもらい、別科の学生がどんなことをしているのか知ってもらう良い機会となった。うまく書けているという意見をいただき、学生達のモチベーションアップにもつながった。



写真12 練習する学生達



写真13 教えあう様子



写真14 指導を受ける学生



写真15 野村先生の説明を真剣に聞く学生達

#### 4.7. 書初め

年末年始の行事に関して説明した後、書初めを体験させた。新年の抱負を書かせたいところだが、ハードルが高い。また、初めて使う筆と墨で2文字以上を書くことは難しいため、こちらで選んだ既習漢字や良い意味のある漢字一字をピックアップし全体で確認後、一人一字選んで書かせた（写真16）。

まずは新聞を4つ切りにした物に何回も練習してから、枚数を限定して半紙に清書させた。普段の漢字学習の際に指導している書き順や始点がなぜ大切なのか、筆を使って書くことで実感できるような声かけをした。

筆の持ち方や文鎮の使い方など教えることはいろいろあったが、すべてを完璧にせず体験することに重きを置いた。授業後には漢字の持つ意味を理解する必要性を実感させるためどうしてこの漢字を選んだのか考えさせ、体験してどう思ったかをクラス内で発表させた。

書初めは留学生別科作品展（2023年1月19日から25日まで実施）で展示した（写真17）。

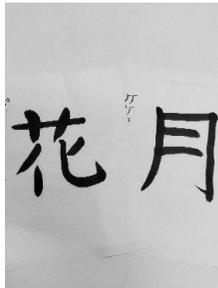


写真16 作品



写真17 留学生別科作品展

#### 5. 今後の課題

初級の日本語力では、自分の力で文章を紡ぎ出すということは困難であった。そこで、こちらで用意した文章を穴埋めしてもらい、言葉と文の構造を学ばせた。今後、初級レベルの学生にも学んだことや体験したことを自分の言葉で表現させる方法を考え出す必要がある。

また、コロナ禍ということもあり、感染対策に追われながらの授業だったため、日本食を作って食べるという体験はできなかった。食文化を学ぶ体験は「香り」と「触感」と「食感」、「味」も体験でき、学習効果を高めると思われる。感染対策、指導方法も考慮に入れつつ授業に組み入れたい。

#### 6. まとめ

一年の授業を通して、今できる最善のものをやったという思いと、他にもっといい課題があったのではないかと、これでよかったのかという思いが交錯している。

日本文化と言っても幅広く、伝統文化はもとより、道路交通法からアニメまで日常生活

の中にも授業で取り上げたい物があふれている。何を選べば学生のためになるのか、何が彼らの役に立つのかを念頭に置きつつ、限られた時間と予算的な制約の中で楽しく体験することを大切に改善していきたい。